# 分科会 19

# みんなで考える! これからのデイケア ~ リカバリーのために精神科デイケアができること~

出演者: 佐竹直子(国立精神・神経医療研究センター)

中田健士・鈴木江一(株式会社 MARS) 池田直矢(恩田第 2 病院心理室) 佐藤由美子(SHARE 普及推進委員会)

企画: 種田綾乃(神奈川県立保健福祉大学)

久永文恵 (認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ)

#### 1. はじめに・話題提供

企画者より、本分科会の趣旨説明として、本分科会は「精神科デイケア」に焦点をあて、よりよいデイケア に向けた「改革」の一歩を考えることを目的とすることを共有しました。

また、話題提供として、2018年度リカバリーフォーラムのデイケアに関する分科会にて、グループワークから生まれた「魅力的なデイケア」に関する要素等を紹介しました。

#### 2. さまざまな現場・立場からの「デイケア改革」の実践・経験の報告

#### 1) 国府台病院デイケアのリフォームを振り返る一リカバリーに役立つデイケアへの挑戦(佐竹直子氏)

わが国におけるデイケアの定義や位置づけ・機能等について整理いただいた上で、国府台病院デイケアにて、「居場所の提供」から「利用者が望む生活の実現(リカバリー)を目指す」デイケアへとリフォームを行った 経験をご報告いただきました。利用期限の設定や個別担当制とケアマネジメントの導入、プログラム内容の再編を軸とし、「革命」に近い大幅なシステムの「改革」を行い、利用者本人の主体的な参加や地域の福祉サービスや就労へのつながりが促進した過程やその中で大切にしてきたこと等をお話いただきました。

#### 2) ひだクリニックのデイケアと福祉サービスとの連携とピアサポート(中田健士氏・鈴木江一氏)

ひだクリニックのデイケアにおいて、プログラムビュッフェ形式で多様なプログラムが行われている様子や、その中でのピアスタッフの働きについて紹介いただきました。さらに、デイケアだけでは対応できない障壁を前に、福祉サービスとの連携を充実させたり、ピアサポート・ピアスタッフの力を活用し、メンバーの個々のリカバリーを応援するシステムへと「改革」が行われてきた過程や、その中で大切にしてきたこと等をお話いただきました。

#### 3)「デイケア改革」と受け継いでいきたいこと(池田直矢氏)

これまでの様々なデイケアでのご経験をふまえながら、デイケアが「変わること(改革)」と共に「デイケアに受け継いできたもの」にも焦点を当てデイケアの大切な要素や強みを整理いただきました。その上で現在、恩田第2病院にて、「居場所」としての大切な要素を受け継ぎながら、「通過型」としての大切な要素を取り入れ、デイケア改革を進めていこうとしているようすやその中で大切にしていきたいこと・思い等をお話いただきました。

#### 3. グループワーク・全体共有

「デイケア改革のためのはじめの一歩 明日からできることを考えよう!」をテーマに、5 人程度の小グループに分かれグループワークを行いました。

**ワーク**①として、「デイケア改革における障壁」について、グループごとに付箋を用いて状況を分かちあい

### リカバリー全国フォーラム 2019 開催レポート https://www.comhbo.net

ました。さらに、**ワーク②**として「デイケア改革のためのはじめの一歩(明日からできること)」のアイデア探しを行いました。グループでの話し合い後、数グループよりご報告いただきました。そして、すべてのグループの付箋を会場の壁に貼り、全体共有を行いました(**図1**)。

改革における「障壁」としては、デイケアの状況の中で生じている様々な課題やチーム内・組織・地域の中での課題、自身の中にある気持ち等の課題等、様々な課題が出されました。

また、改革への「一歩」としては、リカバリーフォーラムの学びをチーム内で共有することをはじめ、メンバーの希望や思いを聞くための工夫、ピアサポーター導入への動き、チームづくり、組織や他部署・地域等への働きかけ等、多岐にわたるアイデアが生まれました(図2)。

これらの付箋を見ながら、最後に、全出演者を囲んで質疑応答の時間をもち、出演者一人ずつより分科会全体を振り返っての思いや感想を話し、分科会を総括しました。



図1. グループワークで出された様々なアイデア(付箋)

## ①改革における「障壁」

- ・メンバーの高齢化や利用の長期化(5)
- ・新規メンバーの定着のむずかしさ(12)
- ・「居場所型」・「通過型」のニーズの混在(6)
- ・デイケア以外の場所が見つからないこと(5)
- ・「居場所型」が否定されやすい風潮(2)
- ・利用期限・年齢等による制約(3)
- ・二一ズ把握や改革の対象に関する苦悩(7)
- ・困難な課題をもつケース対応のむずかしさ(3)
- •チームにピアサポートやリカバリーの土壌がないこと(7)
- ・チーム内のスタッフの知識不足や意識の温度差(8)
- ・スタッフとメンバーの関係性の課題(2)
- ・医師との連携の難しさ(3)
- ・他部署との連携の難しさ(2)
- ・組織全体のシステムとしての問題(16)
- 収益や経営面での問題(7)
- ・施設内のハード面の制約(2)
- ・地域の中での様々なバリア(8)
- ・変化への恐れ・安定維持のきもち(5)
- ・改革に向けた不安・葛藤のきもち(7)

# ②明日からできること ~改革への「一歩」



- ・リカバリーフォーラム等の学びをチーム内で共有(10)
- ・メンバー・家族—スタッフとの声かけ・コンタクト(5)
- ・個別面談の時間をつくること、時間調整の工夫(8)
- ・個々のメンバーからニーズや希望を聞くこと(8)
- ・メンバーの特性などを整理・分析すること(4)
- ・個々のメンバーの特性に合わせた可能性づくり(4)
- ・ピアサポーターや当事者主体の取り組みの導入(5)
- ・チーム内・組織内での仲間づくり(3)
- チーム内のスタッフ間での理解・話し合い(4)
- ・組織内・他部署等へのデイケア周知の働きかけ(6)
- ・外部機関・地域の理解のための働きかけ(3)

※図中の()内は付箋の枚数

図2. グループワークで出てきた付箋の内容(記載内容をもとに企画者が要素を整理)

本分科会を通し、「デイケア改革」は、単にデイケアだけの変化のみならず、チームや組織のあり方、精神 科医療のあり方、支援関係や人間関係のあり方、そして自身の意識等、様々な変化とも大きく関わりあうもの であることを改めて感じた時間でした。よりよいあり方を探しつづける模索しつづける気持ち自体が変化・改

## リカバリー全国フォーラム 2019 開催レポート

https://www.comhbo.net

革への一歩であり、本分科会にて「改革」をテーマに向き合った時間も、きっと明日につながる一歩でもあることを感じます。

本分科会にご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。そして、出演者の皆様や、本分科会にあたりサポートいただきました皆様にも深く感謝いたします。

《種田綾乃(神奈川県立保健福祉大学)》